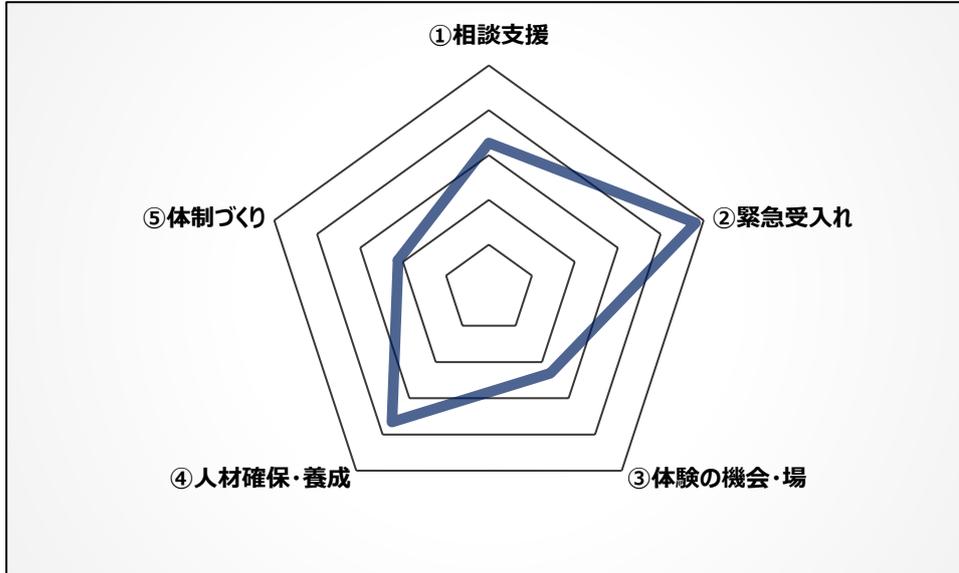


地域生活支援拠点におけるニーズ調査・集計結果（抜粋版）

【設問 1】 地域生活支援拠点の機能のうち、ニーズが高いもの



【主な意見】

①相談支援

- ・ ワンストップ・24時間365日窓口が必要。
- ・ 通所の事業所だけでは完結しない。相談支援事業所を中心として関係機関が連携を。

②緊急受入れ

- ・ 家族・介助者の高齢化にともない、急死、急病・入院等による緊急受入れの問い合わせが増えている。
- ・ 緊急時に使いたくても、短期入所事業所は満床で使えないことが多い。
- ・ もしものときの緊急時の対応が明確になっておらず、不安。

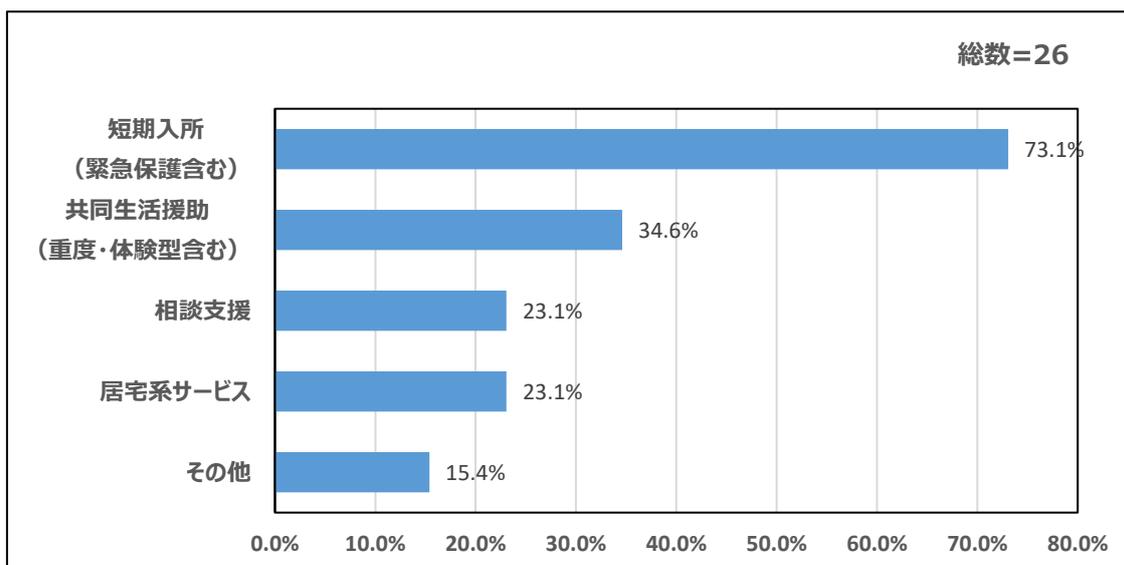
④人材確保・養成

- ・ 福祉業界全般で人材が不足。
- ・ 専門性の不足（重度者対応、医療的ケア、サービス全般の精通）

【分析・論点】

- アンケート回答者のほとんど全員が、「②緊急受入れ」機能が必要との意見。続いて「④人材確保・養成」、「①相談支援」と続く。
 - 短期入所事業所では、緊急受入れニーズに対応仕切れていない実態が浮き彫りに。
 - 「相談支援」で、ワンストップ、24時間365日対応窓口を求める意見がいくつかあった。
- 「足立区」の地域性、資源の展開状況からみて、本当に必要か？ 十分議論が必要では？

【設問 2】 拡大・拡充が必要と思うサービス



【主な意見】

①短期入所事業（緊急保護含む）

- ・ 希望が多く、ニーズに応え切れていない。緊急時対応できる事業所が少ない。
- ・ 緊急枠が必要。
- ・ 重度対応の事業所が少なく、区内での対応が困難。
- ・ 特に医療ケアが必要な方の利用が難しい。

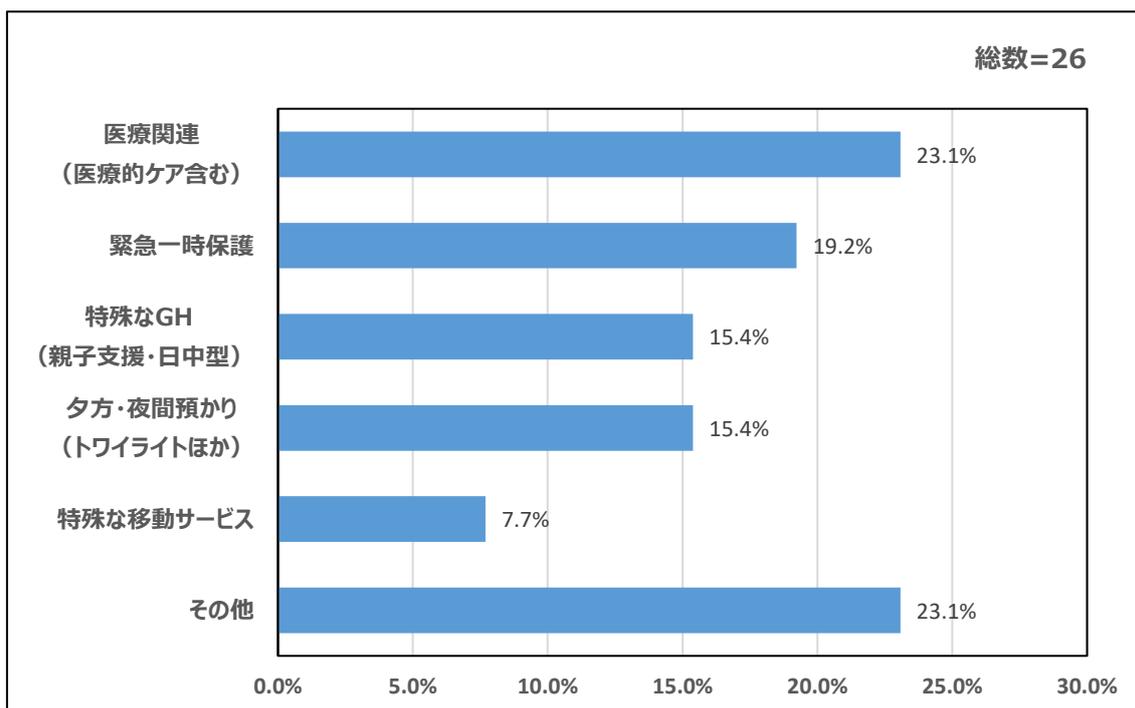
②共同生活援助（重度・体験型含む）

- ・ グループホームが少ない。特に重度対応のグループホームがない。
- ・ 医療ケアや知的に重い方の生活の場が必要
- ・ 気軽に利用できるよう、区内各地域に体験型グループホームがあるといい。

【分析・論点】

- やはり短期入所事業（緊急保護事業含む）の拡大・拡充を求める声が圧倒的多数。
- 現状の短期入所事業は、緊急保護対応ができていない、という現状はここでも同様。
- また、重度者対応、医ケア者の対応ができていないとの意見も。
- ついで、グループホームの拡充を求める声多数。特に重度者、医ケア者対応を望む意見が多い。
 - 区内には知的・身体のGHが80ユニットに迫る勢いにも関わらず、ニーズに応えられていない現状が明らかに。

【設問3】新規で必要と思うサービス・資源等



【主な意見】

①医療関連（医療的ケア含む）

- ・ 障害者を受け入れる医療機関が身近にあるとよい。
- ・ 高齢者のように、障がい者の自宅等での訪問診療、訪問看護の必要性。
- ・ グループホーム入居者にも看護師の訪問巡回など。

②特殊なグループホーム

- ・ 高齢となった親子や兄弟姉妹が一緒に暮らせるグループホーム等。

③夕方・夜間預かりサービス（トワイライト、大人の放課後等デイ等）

- ・ 18歳以上デイサービス。就学していた時より帰宅が早く、働けない。
- ・ 生活介護がバスの2部運行の関係で通所時間が短すぎる。そのため、そのあとの時間の保証が必要。

④特殊な移動サービス

- ・ 「定期バス運行事業」。障がい者が何時でも利用できる定期バス運行（巡回バス）。

【分析・論点】

- 障がい者の日常を支える様々な資源、機能を求める意見が満遍なく、の印象。
- 中でも、医療関連が安心して地域で暮らす上で、比較割合が多かった。
- その他日中活動先と住まいの間の時間を埋める機能、移動に関する機能等、障がい者のくらしの隙間を埋める、重要な資源、機能を求める意見。
→令和2年度以降の引き続きの検討課題か？